

資料1-2

様式-37 総括整理表(案)保護林

総括整理表				写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット3
保護林名	滑床山ウラジログシ等(遺伝資源)希少個体群保護林							
管轄森林管理局・署名	愛媛森林管理署管内							
所在地	愛媛県宇和島市(滑床山国有林 2065林班い小班)							
面積	36.62 ha							
設定・変更年	設定: 平成2年3月 変更: 平成30年4月							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施状況		
			保護林の概要 (設定目的)	標高約370～940mに位置し、暖温帯に属する。ウラジログシ、アカガシや、ウリカエデ、イタヤカエデ、オオモミジ等のカエデ類のほか、イスノキ、ホソバタブ等が生育している。ウラジログシ、アカガシ及びカエデ類が地域的にまとまって生育しており、保護林設定管理要領の第4の3(2)のエ「遺伝資源の保護を目的とする個体群」に該当する。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)		■基礎調査(資料調査、保護林情報図の作成、概況調査) 保護林において調査マニュアルに準拠した基礎調査を実施 ■森林調査(森林詳細調査・植生調査・実生調査・ライン高木調査・植物調査) 3プロットにおいて調査マニュアルに準拠した森林詳細及び植生調査、プロット内に小区画を設置した実生の生育状況、保護林内の尾根から沢にかけて調査ラインを設置してライン高木調査、プロット間等のアクセスルート付近の植物種・巨木の調査を実施■動物調査(センサーカメラ調査・巣箱かけ・フィールドサイン調査、シカの被害状況調査) 3プロットにおいてセンサーカメラ及び巣箱かけ調査により哺乳類の生息状況が調査、プロット間等のアクセスルート付近におけるニホンジカの被害調査を実施
			モニタリング実施間隔	5年				
			法令等に基づく指定概況	足摺宇和海国立公園第1種特別地域【自然公園法】 水源涵養保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区特別保護地区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】		実施時期・回数	平成26年度、平成31年度	

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は全域でウラジログシなどが生育する天然生林となっていた。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	保護対象種(ウラジログシ、アカガシ、カエデ類)は比較的若齢な個体から高齢な個体まで連続的に分布している。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	植被率は低木層20～50%、草本層5%以下で、ハイノキ、ヒサカキなどが優占していた。 林冠が閉鎖しており、ニホンジカによる食害の影響も受けている。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類は7科8種、自動撮影カメラの撮影枚数はニホンジカが最も多かった。 鳥類は17科23種確認され、 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
論文等の発表状況	資料調査	近年(H31以降)の論文発表はなし 過年度の保護林モニタリング調査、県の鳥獣管理計画、ニホンジカによる被害発生位置図等
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	滑床山国有林において、四万十川森林ふれあい推進センターによる防鹿柵の設置(平成18年以降毎年実施)が行われ、植生回復事業を実施している。黒尊山側は南向き斜面でもある為、ササ植生の回復が見られるが、北側斜面では植生回復は進んでいるが、場所によってはあまり回復が進んでいないところもある。

評価・課題等	【確認された影響:㊦野生鳥獣 イ.病虫害 ㊧外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】 保護対象種及び主要な構成樹種に大きな変化はみられない。 ニホンジカによる森林への被害レベルは3と判定され、低木層、草本層に食害がみられアセビやナチシダなどニホンジカの不嗜好性植物が目立つ箇所が点在しているが、保護対象種(ウラジログシ等)への影響は認められなかった。 特定外来生物のソウシチョウを確認しており、今後の動向に注視する必要がある。
--------	---

・R6保護林管理委員会における今後の保護管理に関する意見等
特になし

様式-37 総括整理表(案)_保護林

総括整理表				写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット3
保護林名	弦場山ウバメガシ(遺伝資源)希少個体群保護林							
管轄森林管理局・署名	四万十森林管理署管内							
所在地	高知県大月町(弦場山国有林 1303林班に・と小班)							
面積	4.37 ha							
設定・変更年	設定: 大正10年5月 変更: 平成30年4月							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施状況		
			保護林の概要 (設定目的)	標高約10～70mに位置し、暖温帯に属する。ウバメガシのほか、タイミンチバナ等が生育している。ウバメガシが地域的にまとまって生育しており、保護林設定管理要領の第4の3(2)のエ「遺伝資源の保護を目的とする個体群」に該当する。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	■基礎調査(資料調査、保護林情報図の作成、概況調査) 保護林において調査マニュアルに準拠した基礎調査を実施 ■森林調査(森林詳細調査・植生調査・実生調査・ライン高木調査・植物調査) 3プロットにおいて調査マニュアルに準拠した森林詳細及び植生調査、プロット内に小区画を設置した実生の生育状況、保護林内の尾根から沢にかけて調査ラインを設置してライン高木調査、プロット間等のアクセスルート付近の植物種・巨木の調査を実施 ■動物調査(センサーカメラ調査・巣箱かけ・フィールドサイン調査、シカの被害状況調査) 3プロットにおいてセンサーカメラ及び巣箱かけ調査により哺乳類の生息状況が調査、プロット間等のアクセスルート付近におけるニホンジカの被害調査を実施	
			モニタリング実施間隔	5年				
			法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林【森林法】				
					実施時期・回数	平成26年度、平成31年度		

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林範囲は、全域でウバメガシなどが生育する天然生林となっていた。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	保護対象種(ウバメガシ)は比較的若齢な個体から成熟個体まで連続的に分布している。 一部でカシノナガキクイムシによる被害がみられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	植被率は低木層10～60%、草本層10%以下で、タイミンチバナ、ヒサカキなどが優占していた。 ニホンジカによる食害の影響はみられない。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類は9科10種、自動撮影カメラの撮影枚数はイノシシ、ハクビシンが多い。 鳥類は16科21種確認され
論文等の発表状況	資料調査	近年(H31以降)の論文発表はなし 過年度の保護林モニタリング調査、県の鳥獣管理計画、ニホンジカによる被害発生位置図等
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	管轄する森林管理署・森林事務所により、保護林周辺の巡視等が実施されている。

評価・課題等	【確認された影響:ア.野生鳥獣 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】 保護対象種及び主要な構成樹種に大きな変化はみられない。 ニホンジカによる森林被害レベルは0と判定。 カシノナガキクイムシによる被害もない。
--------	--

・R6保護林管理委員会における今後の保護管理に関する意見等
特になし

様式-37 総括整理表(案)_保護林

総括整理表				写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット3
保護林名	佐田山ヤッコソウ(シイ遺伝資源)希少個体群保護林							
管轄森林管理局・署名	四万十森林管理署管内							
所在地	高知県土佐清水市(佐田山国有林 1243林班に小班)							
面積	10.98 ha							
設定・変更年	設定: 昭和57年3月 変更: 平成30年4月							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施状況		
			保護林の概要 (設定目的)	標高約320～430mに位置し、暖温帯に属する。 スダジイ、アカガシ、イスノキ等が生育している。		結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む)	■基礎調査(資料調査、保護林情報図の作成、概況調査) 保護林において調査マニュアルに準拠した基礎調査を実施 ■森林調査(森林詳細調査・植生調査・実生調査・ライン 高木調査・植物調査) 3プロットにおいて調査マニュアルに準拠した森林詳細及 び植生調査、プロット内に小区画を設置した実生の生育 状況、保護林内の尾根から沢にかけて調査ラインを設置 してライン高木調査、プロット間等のアクセスルート付近の 植物種・巨木の調査を実施 ■動物調査(センサーカメラ調査・巣箱かけ・フィールドサイン調 査、シカの被害状況調査) 3プロットにおいてセンサーカメラ及び巣箱かけ調査により 哺乳類の生息状況が調査、プロット間等のアクセスルート 付近におけるニホンジカの被害調査を実施	
			モニタリング実施間隔	5年				
			法令等に基づく 指定概況	足摺宇和海国立公園第2種特別地域【自然公園法】 干害防備保安林、航行目標保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する 法律】		実施時期・回数	平成26年度、平成31年度	

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林範囲は、全域でアラカシやスダジイなどが生育する天然生林となっていた。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	保護林の主要な構成種(スダジイ、アカガシ、イスノキなど)は比較的若齢な個体から老齢な個体まで連続的に分布していた。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	植被率は低木層10～60%、草本層20～60%で、イスノキ、イヌガンなどが優占していた。 ニホンジカによる食害の影響はみられない。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類は8科10種、自動撮影カメラの撮影枚数はイノシシ、ネズミ科が多い。 鳥類は15科20種確認され、
論文等の発表状況	資料調査	近年(H31以降)の論文発表はなし 過年度の保護林モニタリング調査、県の鳥獣管理計画、ニホンジカによる被害発生位置図等モニタリングサイト1000
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	カシノナガキクイムシの被害木にカシナガホイホイを設置している。 管轄する森林管理署・森林事務所により、保護林周辺の巡視等が実施されている。

評価・課題等	【確認された影響: ア.野生鳥獣 ④病虫害 ⑤外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】 プロット1、2では主要な構成樹種に大きな変化はみられなかったが、プロット3ではアカガシの大径木が枯死している。(カシノナガキクイムシによる被害と推察される) プロット外でも、カシノナガキクイムシによる被害が見受けられたため、状況に応じて粘膜シート被覆等を講じナラ枯れ防除事業等生育個体の保護を検討。 ニホンジカの被害状況調査では、被害レベル0と判定。 特定外来生物のソウシチョウを確認しており、今後の動向に注視する必要がある。
--------	--

・R6保護林管理委員会における今後の保護管理に関する意見等
保護林及びその周辺のナラ枯れ被害の把握と防除の実施。ヤッコソウ観察道の入込者へ安全配慮。

様式-37 総括整理表(案)_保護林

総括整理表				写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 尾根部
保護林名	古屋山大道マツ(遺伝資源)希少個体群保護林							
管轄森林管理局・署名	四万十森林管理署管内							
所在地	高知県四万十町(古屋山国有林 2060林班ち小班)							
面積	8.88 ha							
設定・変更年	設定: 昭和24年3月 変更: 平成30年4月							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施状況		
			保護林の概要 (設定目的)	標高約390～580mに位置し、暖温帯に属する。 アカマツのほか、モミ、ツガ、ウラジロガシ等が生育している。 大道マツと称される枝下高が高く樹幹・木理が通直なアカマツが 地域的にまとまって生育しており、保護林設定管理要領の第4の3 (2)のエ「遺伝資源の保護を目的とする個体群」に該当する。		結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む)	■基礎調査(資料調査、保護林情報図の作成、概況調査) 保護林において調査マニュアルに準拠した基礎調査を 実施 ■森林調査(森林詳細調査・植生調査・実生調査・ライン 高木調査・植物調査) 2プロットにおいて調査マニュアルに準拠した森林詳細 及び植生調査、プロット内に小区画を設置した実生の生 育状況、保護林内の尾根から沢にかけて調査ラインを設 置してライン高木調査、プロット間等のアクセスルート付 近の植物種・巨木の調査を実施 ■動物調査(センサーカメラ調査・巣箱かけ・フィールドサイン 調査、シカの被害状況調査、コウモリ調査) 2プロットにおいてセンサーカメラ及び巣箱かけ調査による 哺乳類の生息状況調査、プロット間等のアクセスルー ト付近におけるニホンジカの被害調査を実施、保護林付 近の国有林内でコウモリ調査を実施	
			モニタリング実施間隔	5年				
				法令等に基づく 指定概況	水源涵養保安林【森林法】 特別母樹林【林業種苗法】		実施時期・回数	平成26年度、平成31年度

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は全域でアカマツやウラジロガシなどが生育する天然生林となっていた。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	アカマツの個体数は少ないが、保護林の主要な構成種(モミやウラジロガシなど)は比較的若齢な個体から老齢な個体まで連続的に分布している。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	植被率は低木層20～50%、草本層10%以下で、アセビやツルシキミが優占していた。 ニホンジカによる食害の影響を受けている。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類は9科12種、自動撮影カメラの撮影枚数はニホンジカ、アナグマが多い。 鳥類は15科21種確認され、 [REDACTED]
論文等の発表状況	資料調査	近年(H31以降)の論文発表はなし 過年度の保護林モニタリング調査、県の鳥獣管理計画、ニホンジカによる被害発生位置図等
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	四万十川森林ふれあい推進センターが、大道マツの松枯れ対策(樹幹注入)を6年周期で実施している。大道マツの母樹の生育本数については、平成24年度は106本であったが平成30年度には81本まで減少している。なお、令和7年3月に調査を行う予定である。 防鹿柵による大道マツの再生試験地の保護、尾根部に生育しているオニツクバネツギの保護を進めている。 管轄する森林管理署・森林事務所・四万十川ふれあい推進センターにより、保護林周辺の巡視等が実施されている。 保護林周辺の国有林内では、ニホンジカの捕獲事業を実施している。

評価・課題等	【確認された影響: ㉠野生鳥獣 ㉡病虫害 ㉢外来種 ㉣温暖化 ㉤自然攪乱 カその他】 主要な構成樹種に大きな変化はみられない。 アカマツの後継木は育っていないが、高木種(モミ、ウラジロガシなど)は比較的多くみられた。アカマツの母樹の生育本数を確認した上で必要な対策を実施する。 ニホンジカの被害状況調査では、被害レベル3と判定され、アセビやツルシキミなどの不嗜好性植物が目立つ箇所が点在しているが、保護対象種(アカマツ)への影響は認められなかった。 特定外来生物のソウシチョウを確認しており、今後の動向に注視する必要がある。
--------	--

・R6保護林管理委員会における今後の保護管理に関する意見等
大道マツの母樹は近年で急激に本数が減少したのであれば早急に対策が必要。また、アカマツの更新に当たって、判断は難しいが尾根筋を割と大きく伐開しないと十分な数の実生の発生は得られない。

様式-37 総括整理表(案) 保護林

[illegible]

・R6保護林管理委員会における今後の保護管理に関する意見等
特になし

様式-37 総括整理表(案)_保護林

総括整理表				写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット3
保護林名	小筋畝山コウヤマキ(遺伝資源)希少個体群保護林							
管轄森林管理局・署名	四万十森林管理署管内							
所在地	高知県津野町(小筋畝山国有林 3281林班は小班)							
面積	18.42 ha							
設定・変更年	設定: 昭和24年3月 変更: 平成30年4月							
保護林概況写真			保護林の概要等			過去のモニタリング実施状況		
			保護林の概要 (設定目的)	標高約630～1030mに位置し、暖温帯に属する。コウヤマキのほか、モミ、ツガ、スギ、ヒノキ等の針葉樹や、ウラジログシ、アカガシ等の広葉樹が生育している。 コウヤマキが地域的にまとまって生育しており、保護林設定管理要領の第4の3(2)のエ「遺伝資源の保護を目的とする個体群」に該当する。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)		■基礎調査(資料調査、保護林情報図の作成、概況調査) 保護林において調査マニュアルに準拠した基礎調査を実施 ■森林調査(森林詳細調査・植生調査・植物調査) 3プロットにおいて調査マニュアルに準拠した森林詳細及び植生調査、プロット間等のアクセスルート付近の植物調査を実施 ■動物調査(センサーカメラ調査・巣箱かけ・フィールドサイン調査) 3プロットにおいてセンサーカメラ及び巣箱かけ調査により哺乳類の生息状況調査を実施
			モニタリング実施間隔	5年				
			法令等に基づく指定概況	四国カルスト県立自然公園普通地域【自然公園法】 水源かん養保安林【森林法】		実施時期・回数		平成26年度、令和2年度(写真のみ)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	小筋畝山地区の保護林範囲は、全域でコウヤマキなどが生育する天然生林となっていた。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	保護対象種(コウヤマキ)は比較的若齢な個体から老齢な個体まで連続的に分布している。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	植被率は低木層1～60%、草本層15%以下で、ハイノキやツルシキミが優占していた。 ニホンジカによる食害の影響を受けている。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類は10科13種、自動撮影カメラの撮影枚数はニホンジカ、ネズミ科が多い。 鳥類は14科19種確認され
論文等の発表状況	資料調査	近年(H26以降)の論文発表はなし 過年度の保護林モニタリング調査、県の鳥獣管理計画、ニホンジカによる被害発生位置図等
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	管轄する森林管理署・森林事務所により、保護林周辺の巡視等が実施されている。 不入山林道の補修を行った。

評価・課題等	【確認された影響:㉠野生鳥獣 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】 保護対象種及び主要な構成樹種は、比較的若齢から老齢まで連続的に分布している。 ニホンジカの被害状況調査の被害レベルでは3と判定され、アセビやツルシキミなどの不嗜好性植物が目立つ箇所が点在しているが、保護対象種(コウヤマキ)への影響は認められなかった。
--------	--

・R6保護林管理委員会における今後の保護管理に関する意見等
特になし